

巻頭言

田村 やよひ

国立看護大学校長

Yayoi Tamura RN. Ph.D. / President of National College of Nursing, Japan

本学も創設して6年目を迎え、研究紀要も第6巻を発行できるようになりました。教官の研究活動がこのようにまとめられ、世に問うことは重要で意義深いことですし、大変うれしいことです。

昨春、創設期の重要な基盤づくりを終えられた竹尾恵子前大学校長からバトンを渡され、やがて1年になろうとしています。厚生労働省の看護課長時代と比べるとじっくり考える時間が特段に増加しました。そのなかで、日々考えることは、本学が他の看護大学とは異なるミッションをもっているということを教育、研究のなかでどのように具現化するかということです。国立高度専門医療センターの看護職員の育成を通じて、政策医療における看護サービスの向上を図ること、そのための臨床看護活動を支える知識の体系を構築することが本学の役割であることは明白です。このことを踏まえて、「何ができるか・できたか」が問われなければなりません。今年は研究課程部も完成年次を迎え、2年生は修士の学位取得につながる特別研究論文に取り組んでおり、それに伴って教官の教育研究活動もより活発になっています。やがてその成果が次々と生まれてくるものと期待しています。

超高齢社会を迎え、また人口減少が始まるなかで、わが国は社会システムを大きく改革している真只中にあります。国立高度専門医療センターも平成22年度には独立行政法人になるという方向性が決まっています。本学はどのような形になるか、まだ具体的には決まっておりませんが、影響を受けることは明らかです。そうしたなかでも、本学の設置の理念の旗は高く掲げて進まなければなりません。教職員一同、しっかりとした絆を結び合い、大きな変化に対処していきたいものです。

最後になりましたが、研究紀要の編纂は学術研究委員長以下、委員の皆様、そして査読を担当された教官など多くの関係者の協力によって行われました。ここに感謝の意を表して、巻頭の言葉といたします。